

## 2019/04/28 奥熊野韋駄天ウルトラマラソン 大森 哲也

平成最後のウルトラ挑戦の参戦記となります。

4/28 堤さん長船さんと3人で出陣となりました。ウルトラのベテランお二人とウルトラ二回目挑戦の私です。前日夜に近畿の最南端和歌山県新宮市へ入り、レース当日はホテル前3時45分発のバスにのり、会場(熊野大社)へ向かいます。ライトアップされた幻想的な那智の滝(必見)をバックに常連の選手たちが、護摩木を完走祈願で奉納し、どんど焼きの煙を体にかけて、完走祈願です。いよいよ5時のスタート!ウルトラ部門543名がいきなり500メートル級を越えて行きます。あとは300メートル級の山を三回越えるコースとなります。峠のつなぎは舗装された比較的平坦な山道(私はそうは思わない)となります。何度も走破されてる選手は大したことないと言われるますが、またまた騙されました。練習は結構やったつもりでしたが、最初の峠越え(20キロ地点)は余裕あり、次の峠越え(50キロ地点)やっぱりあかん!そして連続して来る峠越え(65キロ地点)脚が終了でした。そこから私のウルトラが始まりました。スタート前の想定では80キロまで脚を残してそこから早歩き勝負でしたが、また大失敗。35キロを残して走れなくなり、脚の痛み、血流の異常等で長い長いレースとなりました。このレースは山道なので沿道の応援が少なく、エイドの方々の応援が頼りでした。お腹一杯でスタートしてますが、7000キロカロリーを消費するウルトラではレース中の補充が重要となります。通常バナナ、チョコ、くだもの等の他、茶粥、ブルーベリーヨーグルトが体に染み入りました。いつも感じてる事ですが、エイドのスタッフの皆さんの補助がなければ、特にウルトラは成り立たないと改めて感じたレースとなりました。今回KTCのウェアで出場したのですが、案の定レースの一番声をかけて欲しくない80キロを越えたあたりで後ろから来た見知らぬランナーの方に追い越しながら『KTCの方ですか?皆さん速い方ばかりですね』とお言葉を頂き即『私三軍ですから』と答えておきました。最後に前回のウルトラは歩きっぱなしで終わりましたので、今回のレースはラスト5キロだけは超ゆっくりであっても走ってゴールをする事を心に決めて何とか走りきりました。ゴールではスタッフの皆さんにあたたかく迎えて頂き、切り株で作った完走メダル頂きました。スタッフの方々から『来年も来てやー』私はノーコメントでした。



記録 大森 13時間 08分